

福山市立小・中・義務教育学校の現状と課題

1 福山市のめざす教育

市 『福山みらい創造ビジョン』 未来に夢や希望を持ち、自ら学び育っている

教委 『第三次福山市教育振興基本計画』 ・よりよい社会を創るために自ら主体的に考え行動できること
・ふるさとに愛着と誇りを持ち、様々な世界で活躍すること

主体的・対話的で深い学び	学びをつくる教職員研修
元気・笑顔で学び続ける教職員	多様な学びの場の充実
子どもの学びを支える教育環境の整備	

2 児童生徒数の現状と将来推計



3 学校規模の現状と将来推計



4 学校施設の状況



5 これまでの学校再編の取組

・再編校 10校を開校 ・イェナプラン教育校・特認校の創設

【成果】 ◆ 一定の集団規模の確保による主体的・対話的で深い学び
…多様な人間関係を通じた子どもたちに必要な力の育成
◆ 教育内容の充実
…多彩な地域資源を活用した探究学習
◆ 教職員配置や部活動の充実
◆ 学校施設の新設・改修による教育環境の向上
◆ 多様な学びの場の整備・充実

【課題】 * 保護者・地域の理解を深めることの難しさ
* 施設整備に係る期間や予算の大きさ
* スクールバスの増加

再編校アンケート

「学校が楽しい」「授業で分かった・できたと実感することがよくある」と回答した児童生徒の割合 9割以上

6 特別な支援が必要な児童生徒の状況

※直近10年間(2015~2024年)の児童生徒数

【特別支援学級】2.1倍 ↑ 【不登校】3.3倍 ↑ 【外国人】2.1倍 ↑

7 教師の現状

・臨時的任用職員の不足 ・教員採用選考試験の倍率の低下

8 コミュニティ・スクール

・2022年度から導入開始、2026年度までにすべての学校・中学校区に導入予定(2025年度現在：43校)

9 義務教育学校の特色

・9年間の学びをつないだ柔軟な教育課程の編成 (韮の浦学園)(想青学園)

・独自教科(韮学、SOSEI学)における探究学習

・前期・後期課程の教員相互の学び合いによる授業の質の向上

諮問 ① これまでの取組を踏まえた今後の学校再編の在り方について

1 学校再編の必要性

■ 一定の集団規模の必要性

- これまでの学校再編の成果から、学校教育には、**子どもが多様な人間関係の中での学び合い、育ち合うことのできる環境**が必要
- 個別最適な学びと協働的な学びの一体的推進のためにも、一定の集団規模が必要

→ 一定の集団規模の確保

【適正規模の基準】 ※現基本方針どおり
小学校：12~18学級(各学年2~3学級)
中学校：9~12学級(各学年3~4学級)

→ 過小規模校(*)の解消

- 複式学級の解消等のため、小学校同士、中学校同士の学校再編の取組が必要

(*) 過小規模校 小学校：1~5学級
中学校：1~3学級かつすべての学級で1学級あたりの人数が19人以下

2 義務教育学校の整備の推進

■ 考え方

- 義務教育学校の特色・本市の義務教育学校の取組を踏まえる中で学校再編の一つの選択肢として、**義務教育学校の整備の可能性を検討**
- 再編後の学校規模、既存施設の老朽度、敷地面積、地域バランスなどを総合的に勘案し、**優先順位をつけ、整備を推進**

→ 学校再編の単位

- 現中学校区単位を基本

【適正規模の基準】
義務教育学校：18~27学級(各学年2~3学級)

- 適正規模を超えるとき … 当該校区を分割して整備することを検討
- 適正規模に満たないとき … 学校の実状や地理的条件を勘案し検討
- ※状況によっては、現中学校区の見直しも含め検討

3 学校再編を進めるにあたり考慮すべきこと

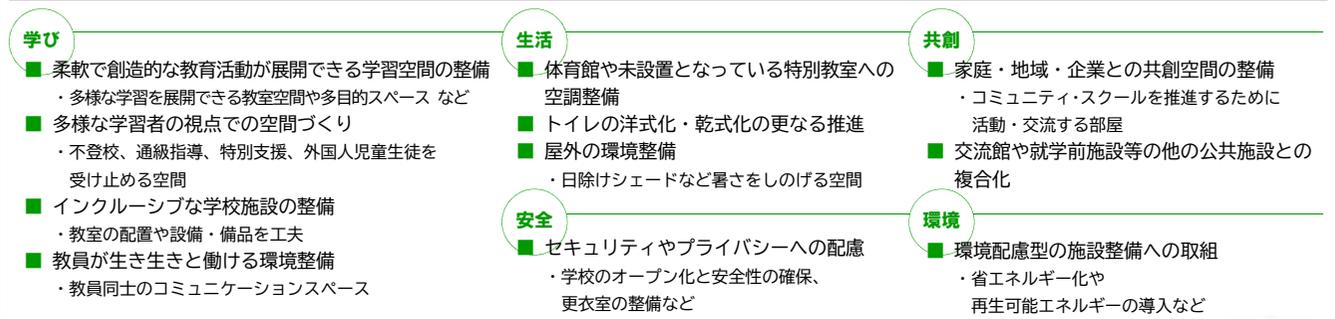
- 情報発信
- 通学手段の確保
- 保護者や地域住民との十分な意見交換
- 将来を見据えた再編計画

4 多様な学びの場の充実

- 学校再編の取組と合わせ、子どもたちが自分に合った学びを選択できるよう、校外フリースクールなど多様な学びの場の充実に引き続き取り組むことが必要
- イェナプラン教育校や特認校などの**特色ある取組の推進と情報発信**
※他の学校がその取組から学び、自校に活かすことを期待

諮問 ② 新しい時代の学びを実現する学校施設の在り方について

個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実 ・ 教育環境の向上と老朽化対策の一体的整備



諮問 ③ 学校と家庭・地域、企業等が協働した学校運営の在り方について

1 コミュニティ・スクールの取組を通じた「地域とともにある学校づくり」

■ コミュニティ・スクールがめざす姿

これからの学校運営は、**学校と家庭・地域が子どもを真ん中に目標を共有し、それぞれの役割のもと責任を果たしていく**ことが重要

■ 企業との協働

企業の参画も促し、子どもたちが多様な価値観や生き方に触れる機会の創出やキャリア形成につながることを期待

2 コミュニティ・スクールの取組を推進するにあたり考慮すべきこと

■ 情報発信・情報共有

学校だよりなどを通して、地域住民が学校を知ること・理解することで、**学校運営に関わる人の輪を広げていく**ことが必要

■ 教育委員会の役割

コミュニティ・スクール導入・効果的な運営には、**教育委員会の伴走支援**が必要